

# 《第14回》学習会のご案内

今回のテーマ：荒川放水路の歴史と  
最新の洪水対策



日 時：令和5年11月18日（土）

会 場：江北地域学習センター 2階 第一・二学習室

講 演：午前10時～11時30分（開場午前9時30分）

講 師：坪野 恭久氏 国土交通省 関東地方整備局  
荒川下流河川事務所 流域治水課 課長

◇定 員：40名 16歳以上

◇参加費：550円（締め切り：11月10日）

◇お問い合わせ infoiguchi@dream.jp 携帯 090-1468-4647（井口まで）

◇アクセス

- ・日暮里・舎人ライナー「江北駅」より徒歩 15 分
- ・東武大師線「大師前駅」より、都バス王 49 系統、  
東武バス西 01 系統「椿二丁目」下車 4 分
- ・東武スカイツリーライン「西新井駅」西口より、  
国際興業バス赤 27 系統「椿二丁目」下車 4 分
- ・足立コミュニティバスはるかぜ 11 号  
(堀の内・椿循環)「江北区民事務所」下車 2 分



☆下記申込書欄にご記入の上、参加費と合わせて当会関係者にお渡し下さい。

「江北地域学習センター」経由でお申込みの方は上記センターまで直接お願ひします。

き り と り

NPO 法人五色桜の会 第14回学習会申込書（取扱者名）

）仮領収書

(ふりがな) 氏 名	
住 所	
電話番号	( )

¥550

令和5年 月 日  
講座参加費用として

様  
NPO 法人五色桜の会

## ■NPO 法人五色桜の会

江北村の「五色桜」は明治 43 年の荒川の洪水の被害から大規模な河川の改修、更には工場の煙害、樹勢の劣化、戦後の燃料への転用により絶滅したと言われています。その後、アメリカからの「里帰り桜」が実現し近年になり「五色桜」復活の取り組みがありました。そうした時代の変遷のなかで、当会では「五色桜」をめぐる先人の偉業や功績を広く語り継ぎ、後世に伝えようと平成 24(2012)年の「日米友好桜 100 周年」を節目に活動を本格化させ今日に至っています。「学習会」や観桜会など多岐にわたり事業を立ち上げ、平成 25 年から毎年、「あだち五色桜マラソン」を荒川下流の江北橋緑地にて共催しています。 詳細はホームページを参照 <https://www.goshiki-sakura.jp>

## ■講座紹介—第 14 回学習会(講師:坪野 恭久氏)

荒川放水路は 2024 年 10 月 12 日に通水 100 周年を迎えます(通水式:1924 年(大正 13 年 10 月 12 日に実施))。その大元となる荒川は 173 kmに及ぶ一級河川です。埼玉県、山梨県、長野県にまたがる秩父山地の甲武信ヶ岳(標高 2,475m)の山麓に「荒川源流点の碑」があり、そこから秩父盆地を通り長瀬渓谷を抜け埼玉県の寄居より関東平野に出て、熊谷、川越、戸田市、東京都との県境を経て、北区の新岩淵水門で墨田川と分かれ、足立区より向きを変え江東区、江戸川区の区界を通り東京湾に注ぎます。古くから荒ぶる川の経緯があり、度々洪水を引き起こしていました。そのため、治水の事業の歴史も併せ持つ河川でもありました。江戸時代の西遷、明治/大正/昭和時代の放水路開削事業は荒川の流路を変える一大事業でした。この講座ではこうした荒川の歴史を含め分かり易く皆様に解説致します。

## ■学習会の歩み

第 1 回 平成 23 年 9 月 2 日 「熊谷堤に桜を植えた歴史」 清水 幸蔵氏

第 2 回 平成 23 年 12 月 3 日 「荒川放水路と五色桜」 篠田 昭氏

第 3 回 平成 24 年 4 月 8 日 「五色桜と地域の文化活動を体験」 当会理事(近藤直子・井口信昭)

第 4 回 平成 24 年 10 月 28 日 「足立の川の移り変わりと“荒川堤”の桜」 矢沢幸一朗氏

第 5 回 平成 25 年 4 月 7 日 「駒込・染井の植木屋跡を散策」 としま案内人駒込・染井 6 名

第 8 回 平成 28 年 11 月 12 日 「江戸大名庭園と高木孫右衛門」

旧芝離宮恩賜庭園散策 当会理事(井口信昭・安藤 寿)

第 9 回 平成 29 年 10 月 11 日 「文明開化を迎えた植木職人」

名勝 旧古河庭園散策《ボランティア・ガイド付き》 当会理事(井口信昭・安藤 寿)

第 10 回 平成 30 年 3 月 11 日 「日米友好桜と尾崎行雄の信念」 原 不二子氏

第 11 回 平成 30 年 10 月 19 日 「五色桜の分植活動」 松本安弘氏、宮本洋平氏

第 12 回 令和元年 12 月 5 日 あだちの五色桜を身近に～清水謙吾村長に思いを寄せて」 浅香孝子氏

第 13 回 令和 4 年 11 月 26 日 「五色桜をめぐる近年の歴史」 浅香 孝子氏、清水 正嗣氏、金澤 大輔氏